

アサヒビール社、キリンビール社、サッポロビール社、サントリービール社による
 北海道（道東エリアの一部）における共同物流の開始について
 ～ビール4社初の共同物流を2017年9月よりスタート～

アサヒビール株式会社
 キリンビール株式会社
 サッポロビール株式会社
 サントリービール株式会社

アサヒビール株式会社（社長 平野伸一）、キリンビール株式会社（社長 布施孝之）、サッポロビール株式会社（社長 高島英也）、サントリービール株式会社（社長 山田賢治）は、物流部門での環境負荷の低減および長距離トラック輸送の削減によるドライバー不足への対処を目的に、北海道の道東エリアの一部（釧路・根室地区）において共同物流を行うことで合意しました。

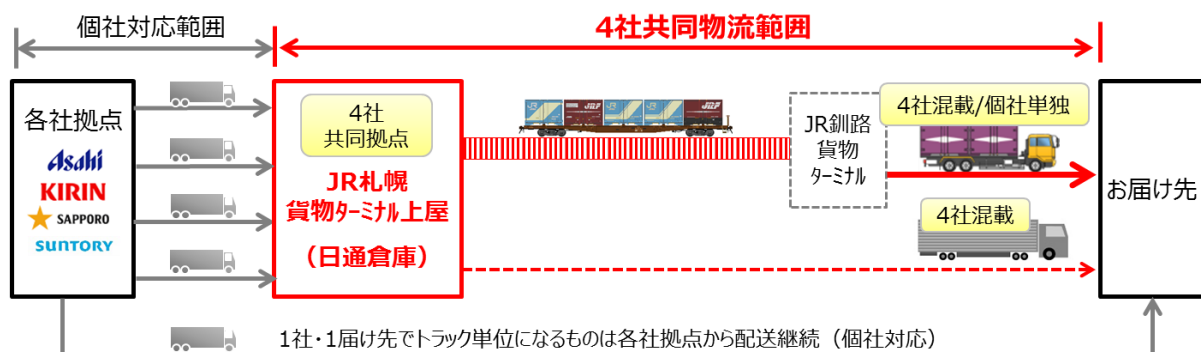
当該エリアは各社とも札幌市近郊にある製造・物流拠点からトラックによる配送を行っています。2017年9月にスタートする今回の共同物流では、トラック単位に満たない荷物を対象(*)に、4社の製造・物流拠点から JR 札幌貨物ターミナル駅構内の日本通運の倉庫に商品を集積し、配送先ごとに各社の商品を積み込み配送します。運送手段は、鉄道とトラックを活用します。

(*) 今回の共同配送スキームは、原則として、1社1届け先でトラック単位(目安10t超)にならない荷物を対象とし、各社拠点からのトラック配送は一部継続します。また、各社グループの酒類・飲料会社の荷物も対象となります。

この取り組みにより、鉄道コンテナの活用と積載率の向上に伴う物流の効率化が促進され、4社合計で、年間のCO₂排出量が約330t(従来比で約28%)削減できると試算しています。また、長距離トラックの運行台数については、年間で約800台の削減を見込んでいます。

アサヒビール社、キリンビール社、サッポロビール社、サントリービール社は、世界的に関心が高まっている温室効果ガス対策や、長距離トラック輸送のドライバー不足に伴う物流インフラのひっ迫に対して、環境にやさしく持続可能な物流の共同展開を進めてきました。引き続き「競争と協調」の視点から既存の枠組みを超えた協力体制を構築することで、更なる持続可能な社会への貢献を目指していきます。

〈ご参考：北海道（道東エリアの一部）における共同物流のスキーム〉



以上